

一屋一室の家

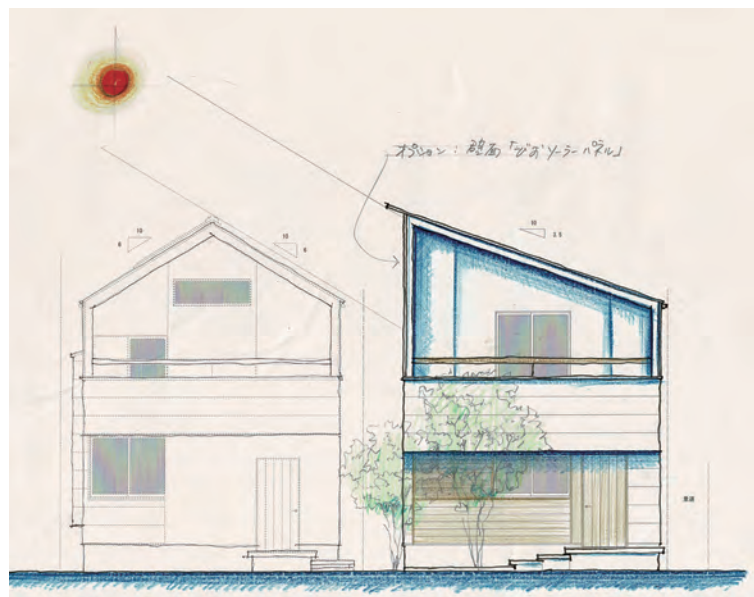
人口 45 万人程の阪神工業地帯の工業都市に建つ家です。そんなイメージと違い付近には河川、里山、田園、しょうぶ園などがあり、密集した街路のなかにも広がりを感じる環境です。建設地は東道路で、南北に細長く・南と西には建物が迫る・狭小の敷地条件です。明るく、暖かく、健康的で、季節感を楽しめる暮らしをどのようにして実現するかを考え建物形態を決めました。

柱・梁などの構造材には和歌山県の紀州材の杉を、内装材・外装材には奈良県の吉野材を使用しています。準防火地域のエリアで外装を木質化した事で周辺の建物には無い柔らかさを町に提供できています。

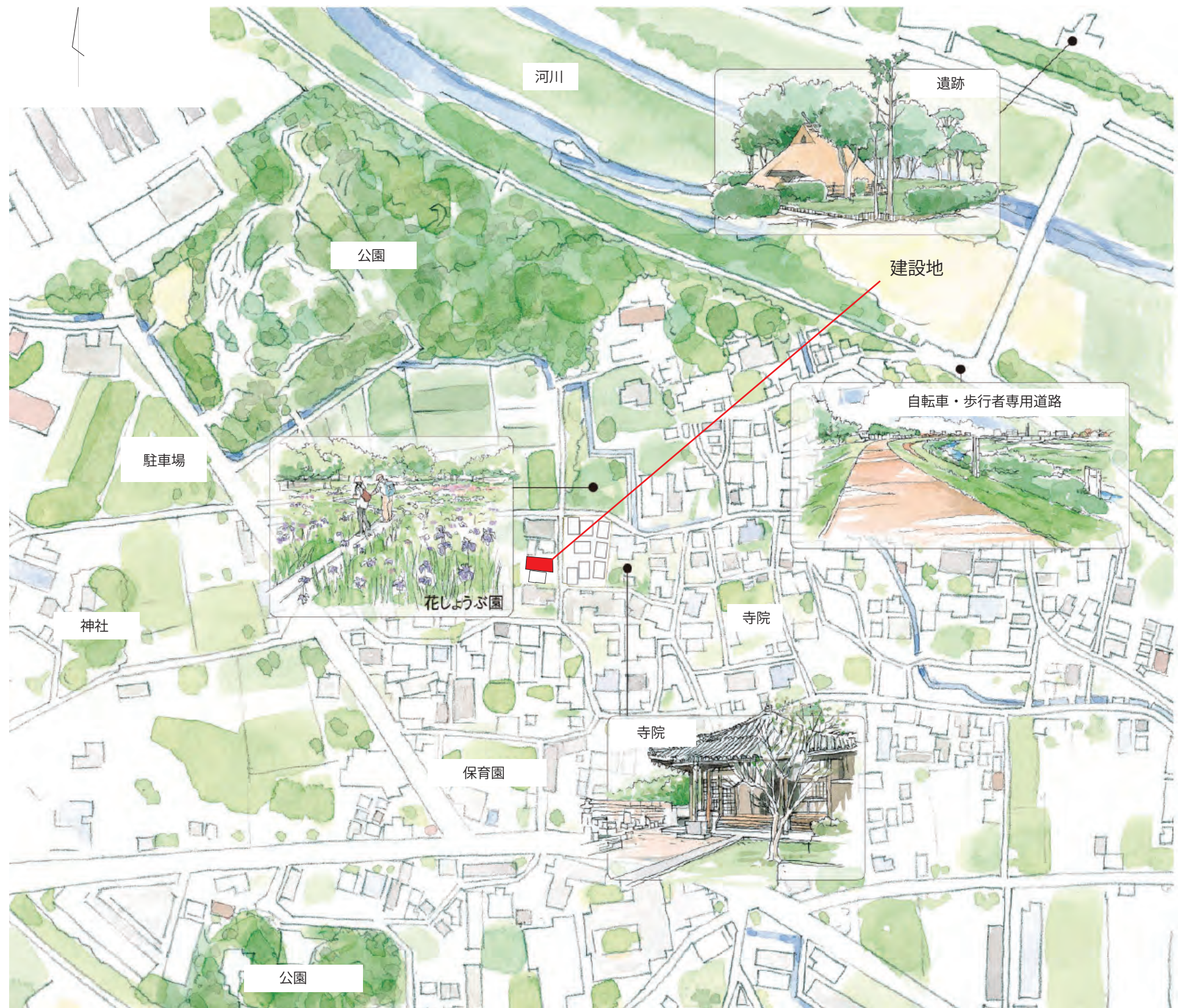
30 坪に満たない延べ床面積で広々と快適な室内環境で暮らす為、一屋一室の考えで光・風・明・熱が上手くめぐる事になりました。



全面道路より建物を見る。遠景の緑は里山風景が残る公園と花しょうぶ園がある。



東面（全面道路面）の立面図スケッチ。冬の陽射しをどう取り込むかを検討しています。



周辺環境図



内装材や外装材には奈良県・吉野杉を使用している。全社員で山を訪ねた事で住まい手と山を繋ぐ担い手としての実感がわいたという。自社のモデルハウスのアプローチには吉野材の切株をアプローチに使い、余すところ無く使おうという意気込みが感じられます。





東道路。南北に長い敷地に建つ片流れの形態。



南隣家の屋根越しから太陽の恵みや風を取り込みます。



西には 3 階建ての住居。隣家との間の隙間から南の光を取り込み、緑を借景します。